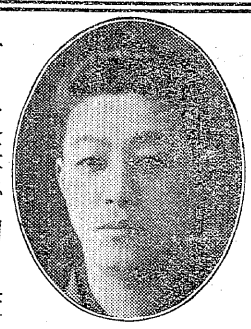
磐城之民政

發行日(毎月十日廿五日)
福島縣平町紺屋町二九
編輯兼發行人　馬目雅治
印刷人
福島縣平町紺屋町十四
印刷所　加納活版所
福島縣平町紺屋町二九
發行所　磐城之民政社
電話八四二
一部金十錢一ヶ月金廿錢
廣告料一行十字詰五十錢

發刊の辞

麥人　馬目雅治



磐城調査新報の主幹として過去四年ケ年に渉つて、經營と文筆勞働を兼ねてゐた私は、昨年六月平町會議員に多數の支持者を得て當選したのを一轉機として獨力を以つて常に支持してゐる政治的抱負を述ぶると共に併せて社會百般の事相を、拘束されぬ立場から批判をなす機關を創成したいと念願してゐたが、其後一身上の多忙が打ち續いて準備が遲々として進まぬを焦慮してゐたのであつた、幸ひ先輩各位の御援助に依つて茲に「磐城之民政」を發刊するを得た事は望外の幸である。

從來の調査紙は私の全部ではなかつた、即ち私の背後に資本主があつた、故に常に紙面構成上に遠慮があり、自ら作る窮窟と壓迫とを感じてゐた、斯くの如くして調査紙は一面私の意見發表の機關として愉快な仕事であつたと同時に焦燥と不滿と矛盾とが常に付きまとつて居た事は爭はれぬ事實であつた。

旬刊新聞の生命と價値は捉はれぬ意志發表と、自由な批判とにある事は言を俟たない、今や自己の保持する政黨的立場に確立して眞の自己發表をなし得る事を歡喜するものである。

親愛なる讀者諸君よ！產聲も高らかに生れ出でた本紙の爲め永く温い御援助を賜りたいと切願いたします。

野黨の策動を排し
解散斷行は確定的
二十三日頃か

野黨政友會は極力解散を恐れる結果、昨年末より種々策動をなしてゐるが、現政府の對議會策はこれらの卑怯なる策動に顧慮することなく依然として解散に向つて直進する方針であつて、年末の閣議でその意響はすでに決してゐるが四日の初閣議に於ても先づ各地方の情報を蒐集し次いで六日の政務官會議にても對策をねり、來る十五日の政府與黨懇談會に依つて更に具体的協議を進める事に決してゐるらしいが、目下の形勢より推察すれば解散は確定的のもので、その時期は大体議會休會明後二三日を出でず、政府の施政方針の演說に對し野黨側の質問を多少許したる後一擧に解散を斷行すべく、期日は二十三日頃と見られてゐる。

はたして然る時は、改選の投票日は二月二十三日の日曜日を以て目されてゐる。

石城政友派
潰滅の期近づく
民政濱三郡三代議士選出の理想實現？

普選實施以來急激に退勢の一路を辿りつゝあつた石城政友會は引續く財界の動搖と共に從來唯一の牙城とたのむ磐銀の休業、平銀の消滅を初め、一二休業同樣銀行の續出に依つて急轉直下的に郡民の意を離れたるのみならず、其の依つて來る被害は猛烈なる反感を煽つて、今や再生の途なしと迄黨内主腦部の者が痛嘆するに至つた、しかし當時は未だ田中内閣存立中で所謂我黨内閣の余慶を以つてかろうじて其體面を保ちつゝあつたが、田中内閣の末期に於ける醜態暴擧の曝露と、憲政創まつて以來且て見ない卑怯未練なる内閣の野垂死振りに痛噴せる民意は更に同派を離反し、解散總選擧を前にして見る影もなき現狀にあるは醜黨の末路とは謂ひ哀れ憫然の至りである。福島支部に於ても去月十五日政友支部代議員會に於ける幹事長佐藤庄太郎追出し問題で同志互に爭ひ、ついに流血の慘事を引起し警察騷ぎ迄なしたるとは、往年一糸亂れずと誇つた政友會としてはあまりに醜い現實曝露ではないか。

勿輪根が利權と金權迎合の醜類の多數を以つて組織されたる石城政友の事なれば一と度び秋風吹き荒めば直ちに本心を表はすは止むを得ぬ事で黨員中にもすでに無關係を稱へる者あり、其だしきは從來より民政黨に好意ありたりなど唱ふるものあつて世の失笑を買つてる者續出である、殊に一方に於ては常任幹事として十年に余る同派の功勞者山田磐麿の幹事辭任申し出での如きは、一部新幹部派の横暴と反感からと謂ひ、或は某野心家の逐出策に噴激した結果とも稱されてゐるが、兎に角内部が紛糾してゐる事は爭はれぬ事實である。故に解散が確定的となり當然總選擧を前にしても野黨として少しの氣勢も昇らず、旭日昇天の民政黨の黨勢に威壓されて萎縮し居るは勸善懲惡を如實に物語るものとして早くも石城政友潰滅の期至れりと謂はれてゐる。探聞するに同派の元老たる某の如きは早くも此の大勢を察知して、來る改選には勝算がつかぬ故少壯無名の青年をアテ馬的に擁立し表面は新人の出現と稱して人氣の挽回を計り、實は無用の努力と費用を費つて世の物笑ひを殘す事を防止せんと策しつゝあると傳へられてゐるが、あり相な手段である。一方石城民政黨は黨幹部が黨員としての努力報ひられ壓倒的民衆の信望を博してゐる今日、双葉、相馬兩部會と協調の上共同戰線を以つて進み、濱三郡代議士三名全勝の理想を實現するは此機にありと有力候補者を物色してゐるが、支部に於ても考慮中の由なれば實現の際は偉觀であらうと一般から期待されてゐる。

小田氏のため
同志が祝宴

好間村小田吉治氏は人も知る如く裸一貫より起つて數百萬の富を築き磐城炭礦界の偉人としてこの不況時にも隆々たる事業振りを發揮してゐるが、同氏は今年五十歳の春を迎へたるに付き永く交友の間なる野崎滿藏、漆畑元吉の兩氏發起となり、同氏の恩惠を受けたるもの或ひは緣故深い者等集り去る九日午後六時から平町末廣に於て同氏の祝宴を張つたが、會するもの十六名、大部分黨同志で、各自胸襟を開いて快談し夜の更くるも知らなかつたと云ふが、近頃愉快な會合であつたと云ふ。

御詫び

本紙の題字として司法參與官井本常作閣下並に本縣知事小柳牧衛閣下より特に御揮毫を願つたのですが、銅版製作の手違ひで本號に間に合はなかつた事及び比佐代議士、野崎縣議、吉田五平氏の玉稿も記事の都合上次號に廻した事を深く御詫申します

賀正・祝發刊

福島縣知事　小柳牧衛

小田吉治　石城郡好間村

漆畑元吉　平町田町

代議士　比佐昌平

縣會議員
（順序不同）
野崎滿藏　若松美三
鷺清昇
山崎吉平
古川傳一
鈴木辰三郎

釜屋商店　諸橋守次　諸橋元三郎

生かせ・そして生きろ

勇生

この間酒の醸造を見た。

酒を作る過程、漸次醗酵して行くその狀態に一種言ふべからざる神秘的の存在がある樣に思はれた。

そこの主人公が云ふ。

酒は生きてる。醸造には人力で如何ともする事の出來ない部分がある、口傳とか秘傳とかいつても言葉ではとても傳へ得ないものがある、体得によつてこの生き物を統御して行くより外はない、こゝに醸造の面白味があるのだ、酒造りの意義ある人生があるのだ、醸造はこの意味に於て藝術であると。

面白い事だと思つた。

化學的に人造酒が發明されても至つて振はないのは所謂作られたもので生きてるものに及ばない結果ではあるまいか、人造絹絲が出來ても天然絹絲の生命は無くなるまい、丁度人造人間といふものが出來ても我々人間が排斥はされない樣に、

けれども人造人間が凡て一樣に出來るが天然人間（言葉が少しおかしいが）はさうは行かない、大天才がある一面に箸にも棒にもかゝらぬ癡も出來る。

生きてるといふ事生命といふものは全く神秘だ。

そしてこの生きてゐるものを統御して行く事が人生だと私は考へる。

「生かして使ふ」といふ言葉があるが、これはよりよき生命を吹き込む事だと思ふ、生きてるものをよりよく支配し導いて行く事だ、この意味に於て酒ばかりが生きてる理ではない凡てのものが生きてゐると考ふべきだ政治家にとつては國家の政治が生きてる。

福島縣知事にとつては福島縣が生きてる。

石炭業者にとつては石炭が生きてる。

材木屋には材木が生きてる。新聞屋には新聞紙が生きてる米屋には米が生きてる。辯護士には事件が生きてる。等々。

生きてるものを良く生かして使ふ事は一種の藝術だ、凡てのものを生きてるものとしてこれに順應し又統御して行くのが所謂藝術的の生活だと思ふ、こゝに人生の妙味と面白味とが存するのだ。

經濟界などゝいふものは殊にデリケートな生きものだ、恐慌とかパニックとかは人の力では如何とも對し方のないものらしい。生きたものだから病氣もある。金解禁といふのは經濟界の病氣に對する手術だ。

生きたものを生きたものとしてその機能を充分に發揮させる事はその當事者の責任だ。

世の中には生きてるものを強ひて殺して使つてゐる輩も大分多い、これは外的には社會の進化を毒するもので內的には自ら意義のない生活を營む醉生夢死の徒輩といふべきである。

石城民政黨鬪士列傳（一）

江名町　江尻藤次郎君

石城は從來政友の絶對地盤として縣下に鳴つてゐた、ことに江名町は同派の金城湯地として憲政會の當時から最近に至るまで民政黨の一指だに染めさせなかつた所であるが、今や立憲民政黨石城部會の支會として江名昭交會三百の黨員を數へ、同地の有力者吉田正雄君を副會長として迎へ旭日昇天の黨勢を築きあるは、たれが何と云つても我が江尻藤次郎君の獻身的努力に待つた事は否定出來ない。

君は憲政會に入黨して黨務に奔走し出したのは、たしか大正十年頃からと記憶する、即ち時間的に見ては割合新しいが其眞面目なる性格と不斷の努力とはつひに今日の盛運を招いだもので、往年漁業に失敗し蒲鉾製造業を開始の當時などは、何にかにつけても黨派的に取扱ふ同地の事とて非常に營業上にさへ不便不利を來たしつゝあつたが、君の鐵石心は寸毫もゆるむこと無く着々黨勢擴張に專心した事は天晴れなものとして郡下黨員の崇敬の的となつてゐる。

約十年に亟々とする君が黨員としての歷史は恐らく敵黨に對する血戰記で、其都度の町議戰にも慘敗し經濟的にも深刻な受難が絶へず身邊を襲ふて止まなかつた、然しつひに報ひられて昨春の町議戰には當選の榮冠を得、石城民政黨常任幹事並に昭交會々長の榮職にあるは當然の歸結である君は年不惑を越へ思想圓熟、今後割合に不振であつた濱通り方面の黨勢開拓には君が一黨を引連れての奮鬪に待つ處が甚大であらうと記者は深感する、石城民政黨常任幹事として、江名町會議員として、益々同町の利福のために奮鬪されると共に、黨人として猛進されん事を祈つてやまぬ。

賀正　祝發刊

共濟病院　耳鼻咽喉科　醫學士　井上俊次郎　醫學博士　渡部貞助
各科專門
外科　醫學士　氏家憲介　醫學博士　桂重次
內科　醫學博士　難波睦　醫學博士　中西林藏
X光線科　醫學博士　難波睦　技師　工藤慶造
產婦人科　醫學博士　松枝茂

衛生試驗所　醫學博士　中西林藏　技師　小熊英夫
藥局　藥劑師　吉本孝平　本院醫事法制囑託　法醫士　岡蕃　本院主事　賀澤忠治
一、衛生試驗所　一、病氣相談所　一、救療所　共濟病院內
共濟病院は皆さんの病院であります、御氣付のことは御注を願ひます。
昭和五年一月
磐城　共濟會　平町　電話六四一番
看護婦募集

御斷り
最初「磐城昭和新報」として發行する手筈でしたが、途中先輩の忠告に從つて、自分の政黨的立場を明かにして本紙號に改める事になりました、從つて磐城昭和新報でいたゞいた祝發刊の少數の廣告は全部本紙へ掲載いたしましたから惡しからず御了承願ひます。
營業部

磐城平町　山崎合名會社　電話營業部一〇番・醸造工場二七番
平製氷株式會社　從業員一同
株式會社　平魚市場　平町大工町（電話三一六番）
石城郡銀行組合
武藤忠雄　石城郡好間村小田炭礦々務所
鈴木寶雄　平町北目町
味噌醸造元　矢吹與助　石城郡平窪村
石城民政黨幹事長　萩原義雄　平町南町
銘酒「近盛」　馬目支店　平町田町（電話二五四番）
吉田壽三郎　石城郡四倉町
銘酒「白馬の雪」醸造元　松本德一　石城郡平窪村
松本精米所　石城郡小川村
安島重三郎　石城郡山田村

土木請負業　渡邊長作　石城郡湯本町
吉田忠太郎
鷹崎正見
村會議員　平田良三　石城郡內郷村
村會議員　志賀留吉　石城郡內郷村
佐川竹治　石城郡內郷村
佐藤三平　石城郡內郷村
加藤丈夫
西村正
石城郡湯本町　湯本信用無盡株式會社　電話四七

賀正祝發刊

高橋亘

桐原英純
平町古鍛冶町

産業技師
尾形治右衛門

駒場株式店
平町田町（電話四六五番）

大數事務所
石城郡豊間村（電話十一番）

入山採炭株式會社
福島縣湯本町

船用セミデーゼル機關製作
中之作鐵工所
石城郡江名町（電話九番・四一番）

代議士
木村清治

東部電力株式會社
平營業所

小野晋平
石城郡小名濱町

平町二丁目
三井自動車部
電話八番・一五六番

江口忠一
福島縣平町

平町搔槌小路四
仙臺屋靴店
廣部勘太夫

新井滋造
平町北目町

小溝仁助
平町北目町

精米麥業
草野金治郎
平町北目町

大輪喜代三
平町北目町

平町二丁目
御料理仕出し
越乃家
電話三三〇番

平町二丁目
蒲鉾製造
折詰仕出し
藤市
電話三〇五番

清仙堂
綿引印房
平町一丁目

平町四丁目
阿部唯次郎
電話四五番

平町四丁目
株式會社
百澤商店
電話一二番

平町三丁目
丸はん
電話三五九番

平町四丁目
關内藥舗
電話四〇番

磐城建物株式會社

平町紺屋町
織田材木商店
電話四六〇番

武田元之助
平町新川町

佐藤岩次郎
平町鎌田町

平町研町
製綿問屋
吉村安次郎
電話二五七番

平町二丁目
關内油店
電話一六番

平町二丁目
なかや洋服店
電話二〇三番

鶴屋商店
平町四丁目（電一四〇）

米穀肥料商
根本品藏商店
平月見町（電話六四六）

土木請負業
前澤文太郎
平町搔槌小路

西村屋藥舗
平町二丁目（電話三番）

土木請負業
只野忠康
平町南町（電話八六一）

土木請負業
猪狩菊三郎
平町田町（電話四七三）

荒物卸商
松崎長三郎
平新川町（電話一七二）

荒物問屋
山城屋商店
平四丁目（電話一六二）

果實問屋
袋屋商店
平四丁目（電話一一）

櫻井清
平町白銀町

鋸製造販賣
竹田儀平
平町六丁目

果實問屋
萬屋與一商店
平四丁目（電話二七三）

日本石油會社代理店
關彰商店
平一丁目（電話六一番）

平町一丁目
坂本紙店
電話一八番

履物問屋
三井商店
平二丁目（電話一五六）

指物製造販賣
鈴木勝彌
平町公園下

平町材木町
綠川建具店
電話一三七番

平町會議員一同

石城郡内郷村白水
杉山炭礦
礦主　杉山今朝吉

平町四丁目
トマモル
柴田書店
電話二三四番・九〇五番

平町料理屋組合

平藝妓屋組合

四倉藝妓屋組合

平洋服商工組合

平西洋料理業組合

平書果組合

片倉磐城製絲株式會社
石城郡平町

平材木商業組合

豊間漁業組合

賀正祝發刊

御料理 **初音**
平町二丁目（電話二三六番）

平町仲田町 御料理 **一力**
電話四一九番

平町田町（電話三五二番） **イワキサロン**
森川泰一郎

平町二丁目 **山家メリヤス店**
電話六〇五番

平町旅館業組合

平町南町 **丸昌軒食堂**
電話四三九番

御料理 御旅館 平松ケ岡公園 **尼子亭**
電話二三〇番

荒物問屋 **大一屋商店**
平町二丁目（電話一三番）

入山採炭株式會社特約店 **矢吹量吉**
平町六丁目（電話八二四番）

平町田町 **高久病院**
電話五一三番

海産物商 **安孫子才三郎**
平町六丁目

平町四丁目 海産物商 **卜印伊藤彌兵衛**
電話五二八番

平町紺屋町 旅館 **住吉屋本店**
電話五九番

平町紺屋町 **炭屋旅館**
關内喜久次郎

飯田近治
平町一丁目

平町紺屋町公園下 **阿部材木店**
電話八四〇番

材木商 **早川重治**
平古鍛冶町（電話八六二）

洋品、小間物 **イワキヤ便利店**
平町搔槌小路

果實問屋 **藤居勝武商店**
平三丁目（電話五四三）

平町新川町 **木村病院**
電話一六四番

平サービスステーション
平驛前（電話六一一番）

西洋料理 **三益**
平二丁目（電話三二一）

生餡製造元 **小野寺製餡所**
平七丁目（電話六一一六）

絹織物賃織販賣 **正本織物店**
平町新町公園下西側

町會議員 **坂本亀太郎**
石城郡植田町

町會議員 **佐藤松之助**
石城郡植田町

石城郡植田町 **山田屋本舗**
電話八番

石城郡植田町 **片岡醫院**
院長 片岡章

小名濱町長 **鈴木榮**

石城郡小名濱町 **久保田醫院**
院長 久保田眞

石城郡小名濱町 **中村醫院**
院長 中村三良

石城郡小名濱町 **新米旅館**
電話八番

箱崎牛右衛門
石城郡高久村

石城郡豊間濱 **濱屋旅館**
電話一九番

江尻藤次郎
石城郡江名町

石城郡江名町 **首藤醫院**
院長 齋藤愼一

町會議員 **青天目信次郎**
石城郡勿來町

石城郡江名町（電話二六番） **平川醫院**
院長 平川喜久也

西洋御料理 カフエー **松ケ岡**
平町紺屋町公園下

平町紺屋町（電話一六五番） **扇屋旅館**
水竹柳助

平町搔槌小路（電話五三八） 自轉車商 **國村商店**
店主 田村岩雄

帝國火災保險株式會社
石城郡代理店

齋藤英三郎
平町四丁目

草子問屋 **大鶴屋商店**
平町研町（電話七〇四）

材木商 **佐藤福太郎**
平新川町（電話三三五）

平町田町（電話四四六番） **有聲座**
小島三正

福山靴カバン店
平町搔槌小路

林檎問屋 **津輕屋商店**
平町二丁目

阿部兼三郎
石城郡永戸村下永井

山野邊義政
平町搔槌小路

溝口源市
石城郡四倉町

飯野村長 **伊藤淺之助**

建具指物製造販賣 **荒川淺次郎**
平町六丁目

磐城・平町田町 **大崎洋服店**
電話七一三番

平町公立學校長懇話會

石城郡 **第一區**校長事務 **協議會**

石城郡 **第二區學校長會**

石城郡 **第三區學校長會**

石城郡 **第四區學校長會**

石城民政黨常任幹事 **吉田廣三郎**
平町搔槌小路

長谷川酉次郎
石城郡四倉町